



心を開いて相手の心に近づく

本日の全校集会でお話しした内容を以下紹介します。



『3月25日に教育委員会より4月から野田中学校へ異動との辞令が出ました。

3月28日に前任の校長先生の離任と私の着任を兼ねて離着任式を行っていただきました。

地域の方々やPTAの皆さん、そして教職員の皆さんに暖かく迎え入れていただきました。

学校に着いたとき、誰かもわからない私に「おはようございます」と元気に挨拶をしてくれ

た野球部の人たちや離着任式が終わった後、職員室に戻る西田前校長や私を素晴らしい歌声で見送り、迎えてくれた音楽部の人たちのおかげでほっとし、安心できたことを今でもよく覚えています。今も朝の登校時に7割から8割の人がおはようございますと挨拶をしてくれています。中には会釈をしながら、また笑顔を添えてくれる最上級のおはようございますをしてくれる人もいます。残念ながら無視、ポケットに手を突っ込んだまま通り過ぎる人もいます。今日はこのあいさつについてお話ししたいと思います。

あいさつ（挨拶）の「あい」には、心を開くという意味、「さつ」には、その心に近づくという意味があります。要するに、あいさつとは、自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為のことです。みんなは「あいさつ」が自然にできていますか？挨拶は「あなたの存在を見つけました。よろしくお願ひします」という人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩といえます。短い言葉ですが、コミュニケーションをとることのできる美しい言葉だと校長先生は思います。そこで**あいさつの4か条**を以下に示します。

「あ」：明るく、温かく　　あいさつの「あ」は、あいさつをする上での大前提、大原則です。

「い」：いつでも、誰にでも　　わたしたちはつい、知っている人だけにあいさつをしがちですが、思いがけないつながりを持つためにも、いつでも、誰にでも、積極的にあいさつをしておきたいものです。

「さ」：先に、すすんで　　あいさつは人より先に行なうことが大切とされています。先にあいさつをするということは、相手よりも早く好意を示すことです。

「つ」：続けて、次の言葉を　　あいさつの「つ」には二つの意味があります。一つは、「挨拶という行為を続ける」ということです。一度きりではなく、続けることが大切です。もう一つは、「あいさつに次の言葉を加える」です。「次の言葉」とは、相手との会話を続けるための言葉です。「おはよう、今日は暑いね～」「こんなにちは。あ、昨日はありがとう！」のように、あいさつの後にプラスアルファーの言葉を続けることで、相手とのコミュニケーションがより活発になります。

以上が、あいさつの4ヶ条（「あ」「い」「さ」「つ」）です。心を開き、相手を敬う気持ちを忘れず、学校中に明るい挨拶の声が響き渡ることを願っています。今週もしっかり頑張りましょう。』